

## 作品にする時に

ある生徒は与えられた課題に対して、自分ではできるという自信、こだわり、情緒の不安定さからか講師である私にくっついてかかってきました。たとえばモダンテクニックなどを教えてもタブレットから絵を真似することしかやろうとしないのでした。自分が納得する課題の取り組み方なら見守るしかありませんでした。

また、自信がなく自己肯定感が低いのだと言うある生徒は新しい課題に向き合う苦手さがあって通常の授業では大変苦しい思いをしてきたようでした。今も集中は続きませんが、作成の見通しを持ち、人との比較ではなく自分のペースで取り組めることができ、少しずつ自信を回復しているようです。失敗感や苦手意識がなく、簡単そうでも高校生として自信をもって取り組むことのできるものをまずスモールサイズの見本例を示しヒントを得て自分にもできるし、これでいいんだと思えるよう、言葉かけには留意します。紙版画などの経験したことのある課題では今この時の自分の思いや関心事からテーマを探ることができたらと思ひ、その思いを言葉にするように促しています。またできた作品をもとに次の課題へ、たとえばマーブリングやモダンテクニックの作品をコラージュしてポスター作品に仕上げました。

授業に出ても取り組めずネットばかり見ている生徒やネットで自分の絵でお金をも

らっていると自慢げに話す生徒もいます。そうした生徒の家庭環境や障がいの状況にゼミ担当として言う言葉を探して話しかけますが、正直何も関われなかったと思います。スマホは資料として画像を見ても良いとしていますが、手元から離さないし、なければ絵を描く気分ではない生徒も多いです。それでも美術館見学や校外へ出てスケッチなどにも参加していました。

## 授業の進め方の例

### ちぎり絵から水彩画へ



一つの作品制作の流れの例として紹介します。これは私が担当するある生徒にとっては筆もよく動いたので良かったのでは、とは思いますが、今のところ生徒の反応もはっきりしないので、今後どう展開しようかと思案しています。

## 美術ゼミを終えてからの生徒

生徒たちの多くは進路の目標を明確にもつことも少なく、障がいのためだったり、複雑な家庭環境のためかふたたび不登校になる生徒もいます。そのため一年次から高校卒業後の進路も見据えての指導がされています。プレ就活という湘南ハローワークでインターシップの経験を積むように体制が整えられています。多くは自分の道を見つけ、充実した学校生活だったという感想

